



令和6年6月28日

見守る大切さ

園長 眞家 順子

今年は、大変遅い梅雨入りとなりました。雨の日の朝、玄関で登園の様子を見ていますと、素敵な姿が見られます。子ども達が傘を自分で閉じて、ネームと言われる紐で胴体を巻く様子やレインコートを脱いだり、裏返しになった袖を元に戻したりする様子を、そばで保護者が温かく見守ったり、自分でやれることをつくったりしてくださっていることです。

子ども達にとって、傘の始末は難しい動作です。傘の胴体を絞ることや、絞れてもネームを胴体に巻いているうちに握っていた手が緩み絞り直したり、ネームで巻いても留め金の凹凸が表に出ない向きでやり直したりと、傘を閉じて傘立てに始末すること一つとっても、子ども達にとって身につけなければならない動きがたくさんあります。

愛情から子ども達の代わりに保護者がされることも多いと思いますが、自分ですることが必要な時期が近づいてから、「さあやってみましょう」と促しても、経験が無ければ身に付けなければならない課題は同じで、簡単にできるものではありません。また、子ども達の時間の流れは緩やかですので、大人のように物事に向き合う気持ちに、素早く切り替えることも難しいです。そのため、時間を掛けて繰り返し行うことで、一つ一つできるようになっていきます。自分でできることが増えることは、自信になっていきます。ですから、愛情や無意識にお子さんの代わりに、身の回りのことをしてしまっていないか見直していただき、子どもたちが自ら健康で安全な生活をつくり出していく力を育むために、一つ一つやり方を知らせ、一緒に行い、そして自分でやってみることを見守っていただきたいと思います。頑張っている姿を認め、うまくいかなくとも、根気強く取り組む気持ちを大事に、これから迎える夏休みをお過ごしください。

一学期の教育活動において、多くのご協力を賜りありがとうございました。二学期、心身成長した子ども達に会えることを楽しみにしております。



- ・自分の気に入った遊びをする中で、教師や近くにいる友達との触れ合いを楽しむ。
- ・水遊びやプール遊びに繰り返し取り組み、楽しんだり、心地よさを感じたりする。

今月の学年目標



- ・自分の思いを表しながら、同じ遊びをしている友達と関わることを楽しむ。
- ・水遊びやプールに興味をもって取り組む中で、水の気持ちよさを感じたり、開放感を味わったりする。



- ・自分のイメージしたことや考えを相手に伝えながら、遊びを進める。
- ・水遊びやプールを通して、自分なりに試したり、挑戦したりして遊ぶ楽しさを味わう。